令和7年度

まちづくり推進部 横手地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 横手地域局
所属長名	藤倉　幹夫

1. 局の使命（ありたい姿）

多様な住民ニーズを的確に捉え、市民との協働による安全安心な地域づくりを進めます。

2. 局の抱える課題（現状）

【現状】
・消防団員や交通指導隊などのなり手が減少している。
・毎年度、災害が発生し避難所を設置している。
・横手地域の7地区交流センター中、朝倉、旭、栄、中央地区に地域運営組織が未設置である。
・毎年度、道路・公園の維持管理の作業中に事故が発生している。
【課題】
・消防団員等の減少に歯止めをかけ、担い手の確保を進めるとともに、非常時に備えた住民の防災意識醸成を図ることが重要である。
・安全安心のまちづくりを推進するため、地区交流センターを拠点とした地域運営組織を活かした地域住民の交流を促進が必要である。
・道路や公園の適正な維持管理を行うとともに、作業安全の管理、徹底をすることが重要である。

3. 今年度の『スローガン』

住民との協働による安全安心のまちづくりを！

4. 今年度の方針

（1）消防団活動を通じた住民の防災意識の向上
（2）地区交流センターを拠点とした地域活性化と協働による交通安全・防犯の推進
（3）道路・公園の適正な維持管理と作業事故ゼロの達成

5. 今年度の重点取組項目

（1）	実現したい成果	消防団活動を通じた地域住民の防災意識の向上
	取組内容	①消防団活動の情報発信を強化し、火災と災害に対する意識醸成を図ります。 ②地区交流センター等での啓発資料の展示により、防災意識向上に向けた広報活動に取り組みます。 ③横手支団幹部との対話連携を基に、各種会議等の場を通じ新規消防団員の獲得に取り組みます。
（2）	実現したい成果	地区交流センターを拠点とした地域活性化と協働による交通安全・防犯の推進
	取組内容	①朝倉地区の地域運営組織を令和8年4月設立を目指した支援に取り組みます。 ②旭地区の地域住民と地域の現状や課題を共有し、地域運営組織形成に向けた支援に取り組みます。 ③栄、中央地区の地区会議担当職員に対し地域運営組織への理解を深化させるための活動を行います。 ④広報活動を強化することで施設利用者の増加を図り、住民の交流促進と地域の活性化に努めます。 ⑤災害時の迅速な避難所開設のため、避難所開設マニュアルや緊急連絡体制などを整備します。 ⑥交通指導隊や防犯指導隊の活動を様々な媒体を通じて紹介することで、新規隊員獲得に取り組みます。
（3）	実現したい成果	道路・公園の適正な維持管理と作業事故ゼロの達成
	取組内容	①危険箇所の早期発見と迅速な対応を図るため、常襲穴ぼこ地の情報収集を行い、データ化することで地域の安全確保に努めます。 ②作業員を刈払やチェーンソーなどの講習会へ積極的に参加させ、安全管理や作業技術の向上に努めます。 ③道路・公園の作業班で人事交流を行い効率的な作業と緊急時に速やかに情報共有ができる連絡体制を構築します。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1)消防団活動を通じた地域住民の防災意識の向上
・条里南庁舎及び地区交流センター、各団所管場所へ消防団行事等の記録写真、団員募集ポスター、訓練大会ポスター等を展示し、情報発信に努めた。また、女性団員による発災時の訓練、広報活動等団員の主体的な活動を通じ、新たな消防団活動のPRを進めた。
・各地区交流センターだよりへの団員募集掲載、各種会議等で情報提供と協力要請をし、新規団員獲得に努めた。
新規入団実績（8月末）7名【昨年度同期11名】

(2)地区交流センターを拠点とした地域活性化と協働による交通安全の推進
・中間支援組織の専門家（アドバイザー）と連携して組織形成に向けた啓発、運営支援等を実施した。
朝倉地区では、6月に運営協議会設立準備会を設立し、8・9月にワークショップを開催した。
令和10年度の地域運営組織設立を目指す旭地区では、地区会議総会で組織の必要性等を説明。その後、アドバイザーを交え、地区会議役員との協議やヒアリングを計2回実施した。
・各地区交流センターが月1回発行する地区交流センターだよりの内容を充実させ、利用促進を図った。
【利用者数実績：6.3％増（8月末）R7年度79,833人、R6年度75,108人】
・交通指導隊員を確保するため各種会議で募集チラシを配布し隊員の加入促進を図ったが、上半期に増員はできなかった。
【現状隊員：17名/定員25名】

(3)道路（街路樹含む）・公園の適正な維持管理と作業事故ゼロの達成
・道路パトロールや道路異常情報システムによる投稿、民間企業と連携した公共施設不具合箇所の連絡体制の構築などにより、きめ細かな維持管理に努めた。
・天皇賜杯全国軟式野球大会や全力！よこて祭り、かまくら・ライド2025、よこてシティハーフマラソンなど大型イベントの主催者等と連携し、イベント実施箇所及び周辺の環境整備等を行うことで事業実施に協力した。
・作業事故ゼロを目指したが、公用車の交通事故1件、草刈り作業中の飛石による物損事故2件、自傷事故1件が発生してしまった。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)消防団活動を通じた地域住民の防災意識の向上
・消防団幹部と連携し、新規団員はもとより、機能別団員、本部団員（市職員）の加入を促進させる。

(2)地区交流センターを拠点とした地域活性化と協働による交通安全の推進
・朝倉地区交流センター運営協議会設立準備会を月1回程度開催する。運営協議会設立に向けた合意形成や意識の醸成に不安が残る場合は、令和8年4月の設立にこだわらず慎重に検討を重ねていく。
・旭地区においては、住民や地域団体、事業者などによるワークショップ等を実施し、地域運営組織の概要や必要性を周知していく。

(3)道路（街路樹含む）・公園の適正な維持管理と作業事故ゼロの達成
・作業事故を発生させてしまい誠に遺憾ではあるが、事故の発生の経緯を十分に分析・反省して今後の安全な作業に繋げていく。
さらに、横手警察署と連携し、短期雇用者等を含む全職員を対象に安全運転講話（KYTトレーニング）を開催する。
・地区会議要望に係るインフラの維持管理・修繕について優先順位、地区バランス等を十分検討し、有効な実施を進める。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）